

平成 24 年度女性医師支援相談窓口—県内病院巡回相談事業報告

富山県医師会担当理事 山下 泉

富山県医師会では県の委託を受け女性医師が勤務する県内病院に、女性医師支援コーディネーターが訪問する巡回相談を行っています。この事業は、出産や育児に向かう、または育児と勤務の両立等に悩む女性医師にヒアリングを通して助言を行うほか、現場の生の声を聞きながら女性医師のみならず、男性医師にとっても働きやすい環境の整備を各病院に願うものです。今年度は富山県立中央病院、北陸中央病院、済生会高岡病院、黒部市民病院の4病院を巡回相談いたしました。

<巡回相談の流れ>

山下理事からの事業概要の説明後、各病院に対して事前に実施した「病院医師の勤務環境調査結果」「女性医師対象のアンケート調査」「医療施設に従事する医師に占める女性医師の割合」の資料に基づき、意見交換を行った。

富山県立中央病院

【日 時】 9月13日（木）14時～15時

【出席者】 野田八嗣病院長、女性医師3名、男性医師1名、事務局1名

女性医師支援コーディネーター：種部恭子常任理事、山下泉理事、県職員、県医師会職員

【意見交換の主な内容】

(院長) ①病院の医師定数は県条例によって定められているため増員は困難であり、現在、県へ嘱託職員の増員を要望している。②輪番当直明けは帰るように指導しているが、科によっては困難なところもある。(外来や手術との関連、入院患者の有無により帰る事ができない。)

(女性医師) ①病児保育が今年4月から始まり利用しているが、前日予約のため当日使用できず困っている。②子供ができたなら育児休暇を取りたいと考えているので、復職後もポストが保証されるようキャリアをしっかりと積みたい。③夫が単身赴任の女性医師は孤立しやすく、本意でないレベルに仕事をおとしたり、離職する例が多くかわいそう。30歳前後のキャリアプランニングを長いプランで持つ事が重要で、ロールモデルがあればいいと思う。

(院長) 皆モチベーションが高く、高度医療を行っている。診療レベルが保たれ、当院が必要と認める医師であれば休職後も復職してほしいと思っている。当院として早急に改善すべきところは、病児保育の問題、院内保育所の定員増である。本人が一生懸命であれば、我々はサポートしなければならないと考えている。



北陸中央病院

【日 時】 10月4日（木）15時～16時

【出席者】 清水淳三病院長、女性医師1名、男性医師1名、看護部長、病院事務局2名、

女性医師支援コーディネーター：山下泉理事、渡辺多恵理事、県職員、県医師会職員

【意見交換の主な内容】

(男性医師) 女性医師が離職されると元も子もない。男



性医師から女性医師への不満は出ていない。女性医師のワークシェアなど、働きやすい環境整備が必要と思う。

(女性医師) ①病棟担当や当直を免除してもらい申し訳なく思っている。今日まで辞めずに仕事ができている事に感謝している。②一人前になるまで10年かかりその後の1年の育児休暇はあると思う。アンケートにある「ベビーシッター券」の要望を検討してほしい。

(院長) 当院の女性医師3名とも戦力になっている。富山県医師会に女性医師バンクがあれば活用したい。小児科の医師がいれば午前中でもいいので来てほしい。病児保育もできるようになり助かる。常勤医の定数は公立学校共済組合で決まっており増員はできないが、非常勤の採用は病院の裁量に任されている。

済生会高岡病院

【日時】10月11日(木)15時～16時

【出席者】飯田博行病院長、女性医師1名、男性医師2名、病院事務局

女性医師コーディネーター：山下泉理事、
中村万理先生(男女共同参画委員会委員)、
県職員、県医師会職員



【意見交換の主な内容】

(女性医師) 3人の子育て中のため昨夏より育児短時間正規雇用を利用し勤務している。保育園への送迎を親に任せ、親の生活を拘束することで辞職を考えたこともあるが続けて来て良かったと思っている。同じ悩み抱える医師ママが周りにいて相談できたこともよかった。

(院長) 女性医師のモチベーションは高く、医師不足の観点からも女性医師を支援していきたい。

黒部市民病院

【日時】10月18日(木)16時～17時

【出席者】新居隆病院長、女性医師8名、男性医師1名、
病院事務局

女性医師コーディネーター：山下泉理事、
丸山裕美子先生(男女共同参画委員会委員)、県医師会職員、県職員

【意見交換の主な内容】

(女性医師) ①子育て中で近隣の病後児保育機関(こぼと保育室)の施設長が高齢のため、将来そこがなくなると大変困る。②自分は子育てが一段落しているが、育児中の後輩に対しては、やる気に応じて現状を工夫し、与えられた権利を使うようアドバイスをしている。また、話しやすい環境作りを心がけ、主治医制からチーム制にして多様な勤務環境で行っている。③現在、育児の最中であるが、頑張る姿勢が大切だと考えており、周囲のサポートに感謝している。10年後返していきたい。

(院長) 当院は県内でも女性医師の常勤の割合が高い。病児後保育や大学との異動の問題等がある。チーム制・シフト制については科長に任せており進めている。次は女性医師の管理職を育てたい。